

# 会派視察・研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 嶋内 九一

1 日 に ち	令和5年10月25日(水)・26日(木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	研修名：第18回全国市議会議長会研究フォーラム 主催者：全国市議会議長会 会 場：西日本総合展示場新館 福岡県北九州市小倉北区浅野 3-8-1
3 参 加 者	嶋内九一、柴田雅也、若尾敏之、吉田企貴、城處裕二、 玉置真一、加藤智章
4 調査・研修の テーマ	統一地方選挙の検証と地方議会の課題
5 主な内容	25日：基調講演「躍動的でワクワクする市議会に」 パネディスカッション「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」 26日：課題討議「議員のなり手不足問題への取組報告」
6 所感、提言事項、課 題等	<b>【嶋内九一】</b> 議員のなり手不足問題に対する地方自治体の視点からの取り組みについては若い世代や異なるバックグラウンドを持つ人々を積極的に誘致し、政治に参加する為の環境整備が必要である。 そして地元コミュニティと連携し、若い世代と異なる職業出身者を議会に呼び込むための具体的な施策や啓発活動に焦点を当てる。 女性が議員としての役割を果たすことの重要性に焦点を当てると、女性のなり手の不足が顕著である場合、女性が積極的に政治参加できるような環境づくりや、女性向けのリーダーシップ育成プログラムの導入が有益である。

6 所感、提言事項、課題等

【柴田雅也】

昨今の地方議員選挙における投票率の低下は、大きな争点がない場合、住民のまちづくりへの関心の低下や住民から見た議会との距離感の広がりも要因の一つと捉えている。

今回、二代表制の一躍を担う議会がどうあるべきか？は議会としての永遠のテーマであると考えて、今回の第18回全国市議会議長会フォーラム【統一地方選挙の検証と地方議会の課題】に参加した。

多治見市の場合、本年4月の市議会議員選挙では定数21人に対して27人が立候補しての選挙で今回においては危機的な状況ではなかったが、全国的な傾向として議員の成り手不足は大きな問題であり、多治見市議会においても、他人事ではないと認識しなくてはならない。その中で今回のフォーラムでは住民の目線から見て、地方議会に欠けている事は何か？を洗い出す事が大きなテーマであったと考える。

人口減少や高齢化が進む中で行財政の厳しさが増す一方、住民ニーズや地域課題が多様化・複雑化していく現状の中で、合意形成が困難な課題が山積することが予想される。そのような中で、持続可能なまちづくりを進めていくためには、地域の多様な声を聴き、住民個々の利害や立場の違いを的確に捉えて、地域社会のあり方を議論する議会の役割はより重要となる。

この重要な役割として多様な人材で構成することは、議会に求められている事ではないかと思う。

この多様な人材とは女性、子育て世代、若年などの全体的にこれまで政治参加が薄いと思われがちな層である。

まずはこのような層が自分が住む街のまちづくりに関心を持てるようにする取り組みが重要であると考えます。そして、それがその先に自ら議員となる政治参加につながる。

そのためには議会として、議会に欠けている事は何か？を絶えず意識して取り組む必要がある。

今回のフォーラムでは、この取り組みをしていかななくては地方選挙において、投票率の低下や無投票当選の増加傾向が強まるという認識が必要であるという事が主眼であったと捉えた。

### 【若尾敏之】

開催市を代表して田仲常郎市議会議長から、地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会の検証について、地方自治の主役は議会であり首長ではない、しかし世間はそうは思っていないのでその原因を探らなければならないとの挨拶がありました。続いて大正大学の片山善博教授から「躍動的でワクワクする市議会に」という演題で基調講演がありました。議会は住民の目線からは本来備えていなければならない要素が欠けており、その要素とは①議場という公開の場での真剣な議論が見えない②税の議論が無い③住民の声が聞けない・聞こえないであるとの話でした。その地方自治の主役が議会であるとの話は共感が持てました。常にその気持ちは持ち続けたいと思いました。また住民に開かれた議会を見せることはとても大切な事であると再認識しました。パネルディスカッションでは「統一地方選挙の検証と地方場会の課題」をテーマに5人のパネリストが例を挙げて説明されました。統一地方選挙の大きな特徴として①女性議員の増加②無投票当選の増加を挙げられました。多治見市に置き換えてみますと、①については増加はしませんでした、変化無し現状維持②については全く該当しません。北九州市で行われているドリームサミットの中学生議会は多治見市でも取り上げて良いと感じました。

2日目は「議員のなり手不足問題への取組報告」を課題討議とした事例報告が3人の方から行われました。議員のなり手不足は住民自治の劣化を招くとの指摘があり、それぞれの事例として登別市の辻弘之議長からは地方議員養成講座を開講するなどの対応をしたとの報告がありました。目黒区のたぞえ麻友議員からは届きづらい女性の声を政治につなぐ為に①そもそもなろうと思わない②なり方を知らない③なってもやめてしまう、という3つの課題を示されました。政治につなぐ前の課題として住所公開が怖い・旧姓使用ができないとの話があり、私が今まで当たり前ぐらいに思っていた事で立候補を断念する女性がおられるなら、これは改善の余地があります。また当然、出産と選挙の両立も考えなければなりません。さらにママインターンの活動についても取り入れると良いと感じました。枕崎市の永野慶一郎議長からは前回の選挙ではギリギリ定数割れを回避しましたが初の無投票を経験、無投票選挙の克服をめざして、定数を論じる委員会の立ち上げ・市民へのアンケート調査などを行い意見交換会などを実施した4年間の取組を紹介されました。現在の多治見市では考えられない事象ですが、我々は真摯に受け止め、住民の立場に立った議会運営をしなければならぬと強く思いました。

**【吉田企貴】**

第 18 回全国市議会議長会フォーラム【統一地方選挙の検証と地方議会の課題】においては、地方議員の成り手不足や、女性活躍の推進と課題等が討議されていた。翻って見るに、多治見市における今回の統一地方選挙は近年まれにみる盛り上がりを見せ、市議会議員選挙についても定員割れ等の問題は発生しなかった。一方で、近隣都市では瑞浪市において無投票となった。これに伴い、瑞浪市議会では定数の見直しが議論されていると聞く。

議員の成り手不足という現象を安易に定数に結び付けることは地方における民主主義の在り方を考えたとき、必ずしも健全とは言えない。むしろ、幅広く有権者の声を政治に届けていく上では、一定の議員数は必要であるし、成り手がいないから定数を減らすのではなく、議員になりたい（≡地域のために貢献したい）と思える人材を育てていくと共に、チャレンジがしやすい環境を整えていくことの方が遥かに重要であると感じている。

こうした課題は多治見のみならず、全国共通の問題意識であることが確認できたことから、今回のフォーラムは有意義なものであった。

**【城處裕二】**

第 18 回全国市議会議長会研究フォーラムは、『統一地方選挙の検証と地方議会の課題』をメインテーマに開催されました。参加させて頂き一番響いたのは、基調講演での片山善博氏のお話でした。地方議会に欠けているものとして、3点挙げられました。①公開での真剣な議論。市民に見える所での議論が大切。結論が変わらない出来レースのような議論では駄目。②税の議論。固定観念を払拭し、必要なモノを必要な時に整える為には税率を変えても実行する。③住民の声が聴けない。何れもなるほどと思える内容でした。人口減少社会に向かい、地方議会の役割も確実に変化しています。見分を広め、議員個人としても議会組織としても、更なるスキルアップが必要であると感じました。

### 【玉置真一】

「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」をテーマに、全国から約2400人の議員が参加されました。

1日目は鳥取県知事や総務相など歴任された片山善博さんが「躍動的でワクワクする市議会に」というテーマで講演され、日本の地方議会に欠けている事として、議場でしっかりとした議論が出来てない、税に関する議論が少ない、市民の発言(参加)機会が少ないの3点をあげられました。

多くの市民に開かれた行政、市議会の為に、たとえば予算案等(補正も含む)を早めに提出、公開し、関心を持ってもらうのも一つの方法かと思えます。

2日目は「議員のなり手不足問題への取組報告」というテーマでの課題討議でした。

4月の統一地方選では無投票当選が増加傾向にあること、女性議員が少なく、議員・議会の多様性を確保することの重要性などが話されました。

2日間を通して、議会の役割、それを構成する議員のあり方などを考える有意義なものでありました。

### 【加藤智章】

統一地方選挙において、投票率や選挙運動の透明性、候補者の公平性などについての検証が必要です。

選挙の透明性や公平性に関する問題がある。

これからは、議会の構造や運営、議会進行、決定プロセスの透明性、市民参加の促進などが含まれるかもしれません。

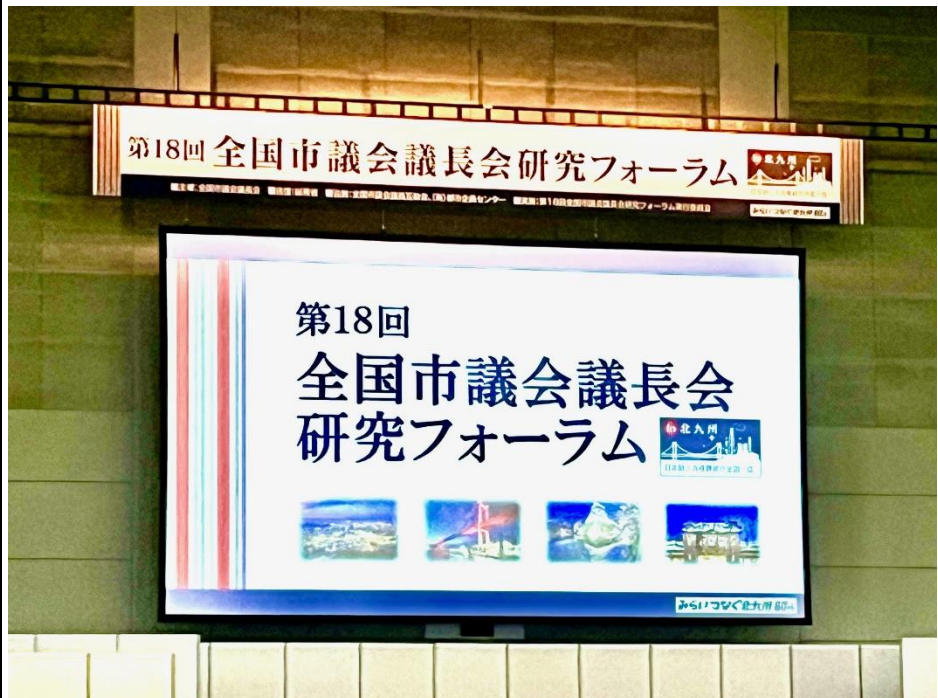
女性議員のハラスメントに焦点を当てている場合、女性議員が直面する問題やその対策について検討が必要だと思います。

地方自治体が抱える具体的な課題やその解決策についても議論される必要がある。

選挙において、異なる社会的背景やジェンダー、民族などの多様性が十分に反映されているかどうかを検証することが重要です。選挙制度が多様な立場からの参加を奨励しているかどうかを確認する必要があります。選挙結果がすみやかに発表され、信頼性が確保されていることが必要と考えます。電子投票やオープンデータの利用などが含まれる場合、その技術が適切に導入されているかどうかを検証対象となります。



7 写 真 等  
 ※視察の場合は必須、研  
 修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。